委員会報告 見る・聞く・動く

総務産業常任委員会

つり堀りネーブルパークを視察 —— 茨城県古河市 ——

町内の公園の池で釣りしている方を見かけますが、禁止されている区域が多くなっています。禁止するのでなく有料でできるようにはならないかということで、８月２日に、公園内に有料のつり堀がある古河市のネーブルパークを視察しました。

ネーブルパークのつり堀は、当初蓮池としてオープンしましたが、市民がこの池にコイを放流して蓮の大半が食べられてしまいました。再度蓮を育てましたが、より有効な利用方法を検討した結果、有料のコイのつり堀を始めました。このつり堀の昨年度利用者は約6900人で、ここ数年減少傾向にあります。平成15年のコイヘルペス発生以降、魚を持ち帰ることができなくなっています。この池は、つり堀として管理しやすい形状になっていますので、そのまま松伏町の公園の池で実施するには課題が残りました。

太陽光パネルソーラー発電を視察 —— 松伏町大川戸 ——

大川戸にあるソーラー発電施設を視察しました。
今後の太陽光発電事業を検討する際の事例として、公営のもの、民営のものに限らず、検討する際に大変良い参考になりました。

文教民生常任委員会

障がい者支援施設を視察 —— 越谷市・松伏町 ——

7月29日、松伏町と越谷市の障がい者支援施設を調査しました。

松伏町の「かるがもセンター」と越谷市の「しらこばと」では利用者1人当たり面積に大きな差があります。ソフト面でも、「しらこばと」は、地域とのふれあい交流事業の実施や相談体制など、障がい者支援の中核施設になっています。

越谷市の「児童発達支援センター」には保育士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士など専門家チームが充実していました。ここでは、就学前の子どもに日常生活の基本的動作や集団生活の適応訓練などの＜療育＞と＜発達相談＞を常に行って、子育ての不安軽減に取り組んでいました。

中川の郷（訓練説明する職員）

松伏町では、医師などに発達相談を委託しています。必要があれば「小児医療センター」の受診か「中川の郷療育センター」の訓練を紹介していますが、＜療育＞は実施していません。

「中川の郷療育センター」は、県東南部５市１町の施設で、新規患者の初診が４ヶ月待ちになっている現状を調査しました。

越谷市と松伏町では自治体の予算規模に10倍の差があり、障がい者サービスに大きな違いがあります。その差を埋めているのはマンパワーですが限界を感じました。